

# 全国社会福祉教育セミナー2021

主催：  日本ソーシャルワーク教育学校連盟  
JAPANESE ASSOCIATION FOR SOCIAL WORK EDUCATION

## テーマ

### 無関心が生む不正義と不誠実を 乗り越えるソーシャルワーク教育

～鋭敏かつ感性豊かな「想像」と「創造」の力をいかに育むか～

現在のわが国におけるソーシャルワーク教育は、図らずも未曾有の災害レベルとなったコロナ禍と、それに伴う様々な福祉課題の増大や深刻化の嵐の中にある。貧困や孤立、差別や排除、分断等の問題に対する「無関心」はソーシャルワークには決して許されず、あらためてソーシャルワークとは、「社会正義」の実現のために、「誠実さ」をもった実践でなければならない。そしてこのような状況にあるからこそ、私たちは一層の創意工夫を図り、豊かで質の高いソーシャルワーク教育の歩みを止めてはいけない。求められるのは、鋭敏かつ感性豊かな「想像」と「創造」の力を育むソーシャルワーク教育とソーシャルワーカー養成である。

今回の全国社会福祉教育セミナーでは、以上の趣旨のもとで、福祉士養成新カリキュラムが目指すもの、及び講義-実習-演習の学習循環などの意義や重要性を再度捉え直したい。具体的には、「実習・実習指導」「演習」「ICTの活用」「災害とソーシャルワーク・事業継続計画(BCP)」を取り上げるほか、「潜在化する福祉課題」へのアプローチにも焦点をあてて議論を行う。新カリキュラムの内容にとどまらない、これからのソーシャルワーク教育のあり方について、参加者とともに学び直し、考えることで、今のこの逆境をチャンスに変える機会としたい。

**オンライン&オンデマンド開催 (ZOOM・ウェビナー)**

**開催日：2021年11月27日(土)、28日(日)**

**参加定員：1,000名**

**参加費：8,000円**

※学生に限り 参加費 2,000円

教員・学生・福祉従事者  
福祉利用者・一般の方等、  
どなたでもご参加いただけます。

**お申込先：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟**

以下 URL より、本セミナーの詳細をご確認いただけます。

セミナーHP：<http://jaswe.jp/seminar/index.html>

お申込フォーム：<https://pro.form-mailer.jp/fms/6e687821236476>

**お申込はこちら→**



11月27日(土)

時間	プログラム
9:15～ 9:30	オープニング
9:30～10:30	<b>[講演]</b> <b>無関心に抗う専門職を育む養成教育の必要性～伴走型支援の現場から～</b> <b>(仮)</b> 講師：奥田 知志 氏（特定非営利活動法人 抱樸）
10:30～10:45	休憩
10:45～11:15	<b>[行政報告]</b> <b>社会福祉士養成新カリキュラムの全体像およびポイント</b> 報告：道念 由紀 氏（厚生労働省 社会・援護局 総務課 地域福祉課 地域共生社会推進室併任社会福祉専門官）
11:15～12:15	<b>[総論]</b> <b>ソーシャルワーク教育の新時代 ～「講義－演習－実習の循環」と「シン・ソー</b> <b>シャルワーク教育論」の展開～</b> 新カリキュラムの特徴を踏まえ、これからのソーシャルワーク教育とソーシャルワーク専門職養成のあり方を考え、各論としてのセッションにつなげていく。 空閑 浩人（同志社大学・ソ教連常務理事）
12:15～13:15	昼食休憩
13:15～14:45	<b>[セッション1]</b> <b>実習におけるメゾ・マクロ実践への無関心を乗り越える～2 か所以上・240</b> <b>時間での網羅的な実習をどのような枠組みで実施するか～</b> 今回のカリキュラム改正により、社会福祉士・精神保健福祉士養成における実習はともに「ソーシャルワーク実習」となり、特に社会福祉士新カリキュラムでは時間数や内容が変更された。私たちは「メゾ・マクロ実践に関する学び」「2 か所以上・240 時間」「地域における分野横断的・業種横断的な関係形成」などについて、どのように取り組んでいけばいいのか？地域共生社会の実現に向けて活躍できるソーシャルワーク専門職を養成するため、教員が実習指導者・実習生と協働しながら、これからのソーシャルワーク実習をどう作り上げていくべきかを考えたい。 発題者：畑 亮輔（北星学園大学）/中村 卓治（広島文教大学・ソ教連理事） 指定討論者：高良麻子（法政大学・ソ教連理事）/コーディネーター：渡辺裕一（武蔵野大学）
14:45～15:00	休憩
15:00～16:30	<b>[セッション2]</b> <b>新カリキュラムにおける演習教育～地域に潜み存在する問題に“関心”を持つ</b> <b>ソーシャルワーカーを養成するために演習でどのような創意と工夫ができるか～</b> ある状況がソーシャルワークの対象であるとみなすかどうかは、その関心の有無やあり方による。ソーシャルワーク専門職において、貧困や孤立、差別や排除、分断等の問題に対する「無関心」はソーシャルワークには決して許されない。本セッションは、「2020 年度版 ソーシャルワーク演習のための教育ガイドライン」の共有と、「地域を基盤としたソーシャルワーク実践」という課題をどのように演習で教授するかを土台にしながら、地域に潜み存在する社会問題や生活問題に「関心」を向け、「みる」「考える」ソーシャルワーク専門職を養成するために、演習でどのような創意と工夫ができるかを皆さんと考えたい。 登壇者：保正 友子（日本福祉大学）/行實 志都子（神奈川県立保健福祉大学） 渡辺 晴子（広島国際大学）/コーディネーター：藏野 ともみ（大妻女子大学）
16:30	終了

11月28日(日)

時間

プログラム

10:00~12:30	<b>[セッション3]</b> <b>災害が起きて、私たちは養成教育を止めない！ 参加者とともに考え/創造していく未来</b> 昨年度、突如見舞われたコロナ禍。私たちはオンライン講義や実習方法の検討や実習先確保、学生への支援などに直面し、様々なものを活用し、連携して養成を途切れさせないために走り続けた。地震や台風、大雨などの災害も頻発している。しかし、たとえどんな災害が起きても「私たちは養成教育を止めない！」これまでを振り返り、これからの養成教育について一緒に考えたい。 報告者：坂本 毅啓（北九州市立大学）/渡辺 裕一（武蔵野大学） 茶屋道 拓哉（鹿児島国際大学）/秋山 雅代（日本福祉教育専門学校） 篠原 辰二（Wellbe Design）/山本 克彦（日本福祉大学） コーディネーター：中村 和彦（北星学園大学・ソ教連副会長）
12:30~13:30	昼食休憩
13:30~15:00	<b>[セッション4]</b> <b>コロナ禍が炙り出すグローバル化した地域とソーシャルワーク</b> ソーシャルワーカーの倫理綱領が「すべての人が人間としての尊厳を有し…」と謳うとおり、ソーシャルワークはすべての人を対象としている。しかしグローバル化した日本の各地域で日々の暮らしや生活課題と向き合うソーシャルワークが無意識に対象を周縁化していないか。このセッションでは、日本の社会福祉（ソーシャルワーク）が無関心のままに放置してきた不誠実な現実を直視し、ソーシャルワーク教育へ問題提起する。 登壇者：佐々木 綾子（千葉大学）/調整中（社会福祉法人日本国際社会事業団） コーディネーター：松尾 加奈（淑徳大学アジア国際社会福祉研究所）
15:00~15:30	<b>[総括]</b> <b>—2日間の学びをこれからの養成教育に活かす—</b> 松本 すみ子（東京国際大学・ソ教連常務理事）
15:30~15:45	クロージング

## 第50回 記念企画あり！

詳細は追って掲載します。  
お楽しみに！



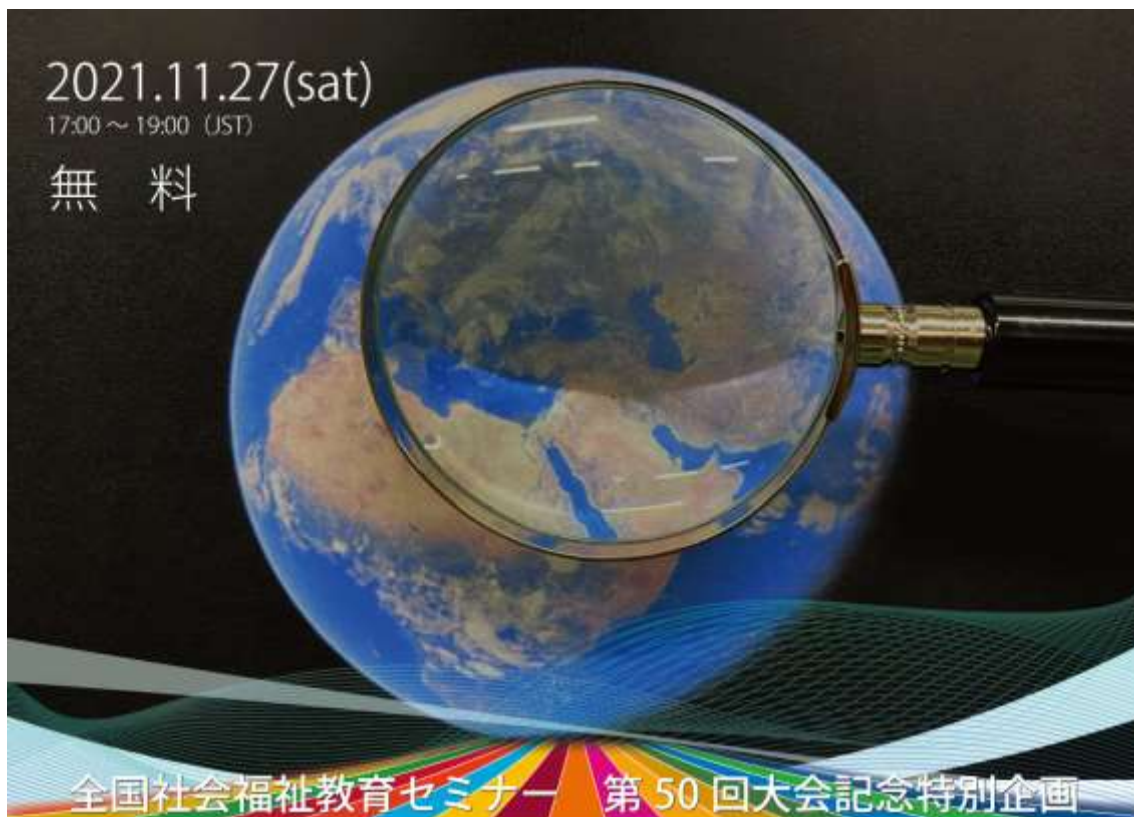
後援（予定・順不同）

厚生労働省、文部科学省、法務省、内閣府

全国社会福祉協議会、全国社会福祉法人経営者協議会、福祉系大学経営者協議会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、  
日本医療ソーシャルワーカー協会、日本ソーシャルワーカー協会、日本介護福祉士養成施設協会、日本介護福祉士会、全国福祉高等学校長会、  
認定社会福祉士認証・認定機構、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、ソーシャルケアサービス研究協議会、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

全国セミナー  
参加者特典！

☆1 日目のプログラム終了後、こちらの企画に無料で参加できます！（別途申込必要）



国際ソーシャルワーク教育シンポジウム (On-line)

## 『危機の時代におけるソーシャルワーク教育』 ～グローバルな視点から～

全世界に広がった新型コロナウイルスのパンデミックは、ソーシャルワーク教育と実践に多大な影響を及ぼしています。新型コロナウイルスは、これまで以上に、私たちの暮らしがグローバルな結びつきによって支えられていることを示すと同時に、グローバル化する課題に対して、グローバルな相互理解と連携の必要性を提起しています。本シンポジウムは、こうした状況をふまえ、世界および各地域がコロナ禍で直面したソーシャルワーク教育・実践の困難や挑戦、そしてその克服の過程ですすむ革新を、グローバルおよびローカル（グローバル）な視点から考えます。

### シンポジスト



タン・ノ・ティオン  
(Tan Ngoh Tiong)

シンガポール社会科学大学教授、  
IASSW 財務担当理事、元国際ソ  
シヤルワーカ一連盟副会長  
「グローバルイゼーション、社会変容  
とソーシャルワーク教育の未来」



ミカエル・ウォレングレン-リンチ  
(Michael Wallengren-Lynch)

スウェーデン・マルメ大学講師、  
IASSW 国際ソーシャルワーク教育調  
査委員  
「コロナ禍におけるソーシャルワ  
ーク教育者の経験～IASSW 国際調査の  
結果から～」



テレサ・フランチェスカ  
ベルトッティ  
(Teresa Francesca Bertotti)

イタリア・トレント大学准教授・前  
欧州ソーシャルワーク学校連盟会長  
「欧州におけるソーシャルワーク教  
育と今後の挑戦」



和気純子  
(Junko Wake)

東京都立大学教授、IASSW 日本代表  
理事、日本ソーシャルワーク教育学  
校連盟副会長  
「コロナ禍における日本のソシヤ  
ルワーク教育～ソ教連による調査を  
通して～」

### コメンテーター

白澤政和  
(Masakazu Shirasawa)

医療医療福祉大学大学院教授  
日本ソーシャルワーク教育学校  
連盟会長

### 司会/モデレーター

ヴィラーグ・ヴィクトル  
(Viktor Virag)

長崎国際大学講師  
アジア太平洋ソーシャルワーク  
教育連盟理事

※申込方法・詳細は随時、ソ教連 HP 等にてお知らせいたします。